

E B P M 調 書

事業名	シニアの多様な働き方支援事業	課・担当	人材活躍支援課シニア活躍支援担当	担当者(内線)	
-----	----------------	------	------------------	---------	--

E B P Mによる検証 (ロジックモデル)	
①将来像 (目指す姿)	シニアが個々の意欲や希望によって生き生きと働くことができる社会、働く意欲があるシニアの経験やスキルが生かされている社会を目指す。
②現状	働く意欲や希望のあるシニアが働けていない現状がある。 <ul style="list-style-type: none"> シニアが希望する職種の求人やシニアが応募可能な求人が少なく、就職が難しい。 完全失業率(全国R4.8) 60~64歳3.1% 65歳以上1.4% [参考]年齢計2.5% 少なくとも70歳までは働きたいと考えるシニアが多い。(R2県政サ-ケアアンケート64.8%※) ※「64.8%」は、アンケートの回答者のうち60歳以上を抽出して、集計した数値。 県における高齢者の就業率は上記の希望よりも低く、全国と比べても低い。(R2総務省「国勢調査」(65歳~69歳:県48.4%・国50.0%、70歳~74歳:県33.1%・国34.3%) 県におけるシニアの年代ごとの就業率は10年で上昇しているが、年代が上がるほど伸び率が低い。(H22、R2総務省「国勢調査」)
③課題 (将来像と現状との差についての分析)	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの仕事で培った豊富な経験やスキルを持ち、働く意欲や希望があっても、ハローワークや民間の就職支援サービスでは就職できないシニアが存在する。 <p>【将来像と現状との差についての分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> シニアの希望と求人内容とのミスマッチがあると考えられる。 シニアは短時間勤務を希望する者が多く(セカンドキャリアセンター利用者アンケート)、自宅近くでの就職を希望する傾向がある。しかし、自分の希望に合う求人がハローワーク等で見つからないことがある。 そこで、シニアを確実に就職につなげるため、まず一人ひとりの希望を把握する必要がある。(→専任のキャリアコンサルタントによる就職相談) また、各地域の求人情報を収集し、求職者の希望に沿うよう求人条件の調整交渉を企業と行い、シニアが応募できる求人を増やす必要がある。(→オーダーメイド型の求人開拓) 	

④投入 (インプット=予算)	⑤事業活動 (アクティビティ)	⑥事業実績 (アウトプット)	⑦事業実績から得られる成果 (アウトカム)		
予算額 143,673 千円 一般財源 143,673 千円	セカンドキャリアセンターの運営 (県内9か所、シニアをはじめとする全ての求職者を対象) (1)就職相談の実施 (2)就職支援セミナー等の開催 (3)合同企業面接会の開催 (4)インターンシップの実施 (5)求人開拓 (6)職業紹介	(1)求職者の希望の把握、求職者の不安の解消 (2)就職活動をするに当たっての意識付け、ノウハウの伝授 (3)求職者と企業のマッチングの機会の提供 (4)その企業への就職を検討している求職者の不安の解消、求職者と企業のミスマッチの解消 (5)求人の獲得 (6)求人企業への応募の機会の提供	直接成果 シニアが就職支援のサービスを利用する ・R4利用者数 17,246人 (うち60歳以上 14,729人) ※ともに過去最高	中間成果 セカンドキャリアセンターを利用したシニアの就職が決定する ・R4就業確認者数 1,856人 (うち60歳以上 1,485人) ※ともに過去最高	最終成果(将来像) 働く意欲のあるシニアの誰もが、それまでの経験やスキルを生かして働くことができる

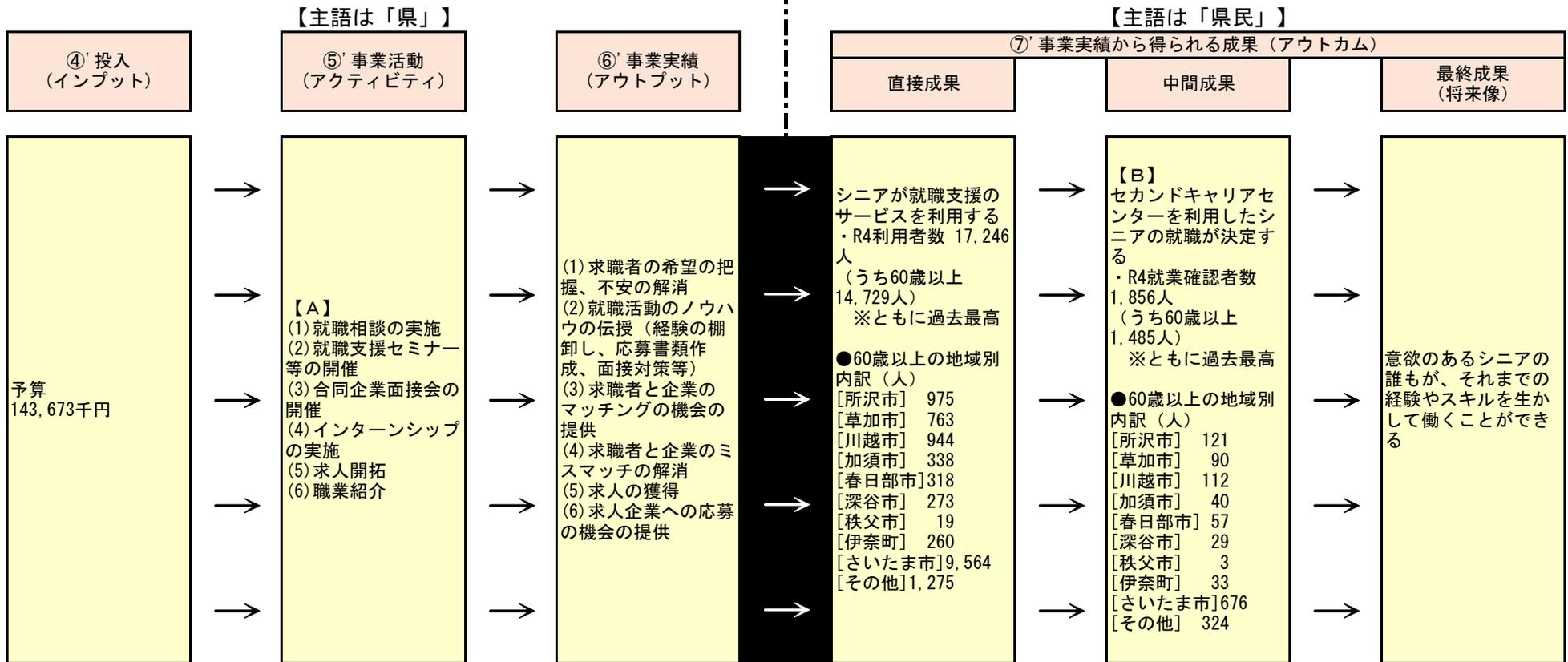
⑧事業実績(アウトプット)が成果(アウトカム)に結び付くことを示すロジック及び根拠
<p>【定量的視点】</p> 利用者数と就職確認者数は比例関係にある。 <p>【定性的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハローワークの求人票では「年齢不問」であっても、シニアが応募すると書類選考の時点で不採用になることが多い。ハローワーク利用による就職活動では成果が上がらず、諦めてしまっているという現状がある。 セカンドキャリアセンターでは、キャリアコンサルタントの国家資格を持ったコンサルタントが専任で就職相談を実施している。常に同じコンサルタントが担当し、1回45分の相談時間の中で、丁寧にシニアの希望を確認することで、就職が決まるまで責任をもって対応している。 求人が求職者の希望に合わない場合は、企業に対して求人条件の調整交渉をすることで就職に繋げている。 <p>※(参考)セカンドキャリアセンターの強み</p> <ol style="list-style-type: none"> ①年齢が高まるにつれて就職が難しくなるため、利用者個々のニーズに合ったきめ細かい支援をしている。 ②求人開拓員が企業と連絡を取り、シニアを積極的に雇用しようという企業を開拓している。 ③限られた求人の中で就職するためには、未経験の分野に転向せざるをえない場合もある。事前に職場体験をすることで、事前の不安を解消し、スムーズに就職に結びつけている。 ④求職者の希望と合わない条件に対し、求人開拓員が本人に代わり、企業の人事担当者等に本人の希望を伝え、勤務条件の調整交渉を行い、少しでも希望に合った就職に結びつくようにしている。

⑨指標	R5	R6	R7	R8	⑩関連する5か年計画の主な取組等	
就職確認者数(60歳以上)	1,270	1,290	1,310	1,330	No.分野別施策名	施策27.高齢者の活躍支援
					主な取組	長い人生で培った経験を生かした就業を支援し、高齢者のセカンドキャリアを後押しする

事業手法に係る自己検証			
	検証項目	評価	評価に関する説明
県費投入の 必要性	事業目的が730万県民や社会ニーズを的確に反映しているか。	○	人口減少社会に対応しつつ、活力ある社会を維持していくためにも、企業におけるシニアの活用は重要である。また、働く意欲のあるシニアが働き続けることで、安心してシニアライフを送ることができるとともに、健康寿命の延伸に繋がる。
	市町村、民間等に委ねることができない事業か。	○	ハローワークと市町村で連携した取り組みは行われているが、ハローワークのサービスだけでは、就職の厳しいシニアに対しては十分な対応ができていない。また、民間のシニアの就業支援サービスは、高度なスキルや経験のある人材を対象としているため、シニアが利用するサービスとしてはハードルが高い。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	成果実績は現行の5か年計画における指標となっており、明確な政策目的（成果目標）の達成手段として優先度の高い事業と位置づけられる。
事業の 効率性	一般競争入札、指名競争入札、プロポーザル方式による契約のうち、一者応札となったものではないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。	△	公募型のプロポーザル方式で実施し、令和4年度は最終的に一者応札であった。しかし、複数の事業者が応札を検討したことから、競争性のない契約内容ではない。
	受益者負担は適切に設定されているか	—	
	使途が事業目的達成にあたり必要なものに限定されているか。	○	予算の大半は、セカンドキャリアセンターを運営するための委託事業費であり、事業実施に必要な不可欠なものである。
	不用率が大きい場合、その理由は適切か。	—	
	既存事業との重複はないか。 国、県、市町村で同様な事業を実施し二重行政となっていないか。	○	ハローワークは求人票の提供を主とするが、セカンドキャリアセンターは求職者の希望を踏まえ、就職相談を中心にきめ細かな支援によって就職に繋げており、仕組みが異なる。また、シニアコーナーを設ける埼玉しごとセンターはさいたま市在住者の利用が多い。よって、二重行政ではない。
コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	対象者が類似する就職支援セミナーの統合により、セミナーの開催回数を削減する。	
事業の 有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	コロナの影響があった令和2年度を除くと、目標値を上回る実績をあげている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が感られる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	シニア等に対するきめ細かな就職相談・職業紹介を行っており、コロナの影響のあった令和2年度を除くと、成果実績が目標を上回っており、実効性の高い手段となっている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	令和2年度はコロナの影響もあり、活動実績が伸び悩んだが、それ以前は利用者数、就職確認者数は毎年度増加している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	利用者アンケートを受け、セミナー等の運営の改善を図るなど、より良いサービスの提供に努めている。
		総合評価	A

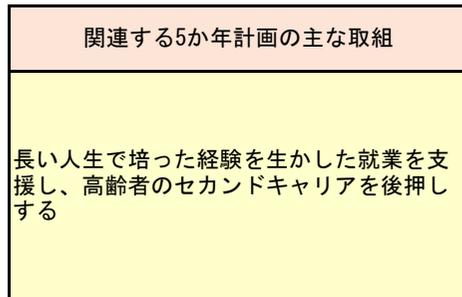
関連する事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右欄に記載）			
関連事業	部局・課名	事業名	役割分担の内容
	産業労働部雇用労働課	埼玉しごとセンター推進事業	埼玉しごとセンターのシニアコーナーをセカンドキャリアセンターさいたま会場として位置づけている

E B P M 調書 ロジックモデル (フローチャート)

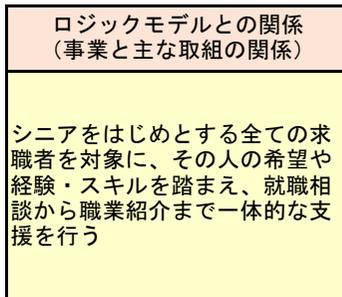


5か年計画との関連の整理

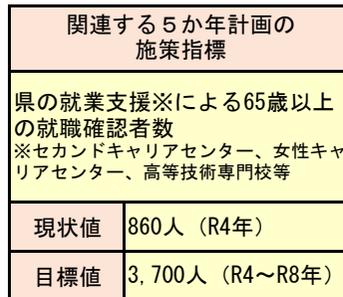
◆主な取組と事業との関係



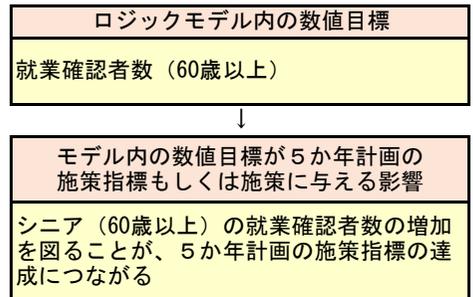
↑関連箇所に【A】と記載



◆施策指標と事業との関係



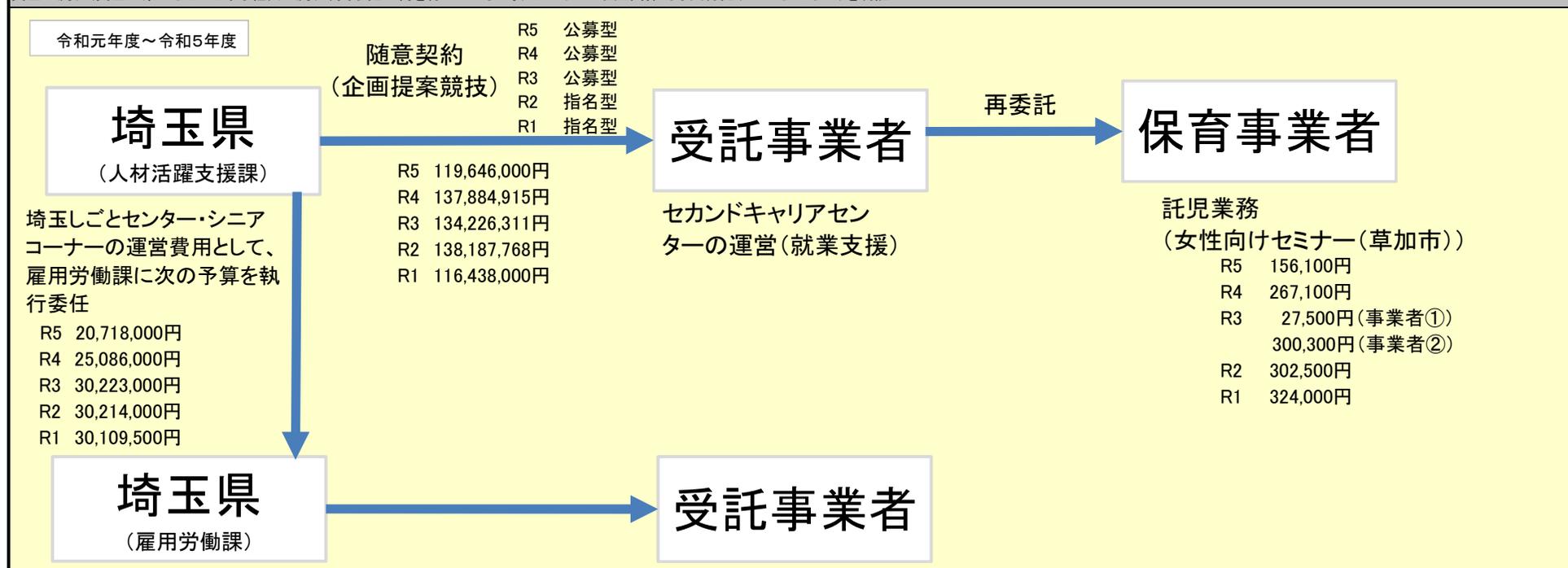
↑関連箇所に【B】と記載



EBPM調書(有識者会議様式)

予算執行状況		当初予算額		補正予算額		最終現計予算額		執行額 (決算額)	執行率
		事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)		
令和5年度	セカンドキャリアセンター運営事業	143,673	143,673	0	0	143,673	143,673		0.0%
令和4年度	セカンドキャリアセンター運営事業	168,155	168,155	-3,693	-3,693	164,462	164,462	163,842	99.6%
令和3年度	セカンドキャリアセンター運営事業	173,291	173,291	-5,437	-5,437	167,854	167,854	167,226	99.6%
令和2年度	セカンドキャリアセンター運営事業	174,043	174,043	-3,152	-3,152	170,891	170,891	168,734	98.7%
令和元年度	セカンドキャリアセンター運営事業	144,065	144,065	-2,229	-2,229	141,836	141,836	140,969	99%

資金の流れ(資金が県からどのような経由で流れ、受取先が何を行っているか。)※スキーム図と具体的な交付先(R1からR5まで)を明記



事業名： シニアの多様な働き方支援事業

事業費：143,673 千円 所 管 課：産業労働部人材活躍支援課

事業概要

働く意欲のあるシニアが個々の希望に応じて働くことができるよう、県内 9 か所に設置しているセカンドキャリアセンターにおいて、一人ひとりのニーズに合わせた就業支援を実施する。

事務局の説明

<会議対象とした理由・論点>

セカンドキャリアセンターは県内 9 か所でシニアをはじめとする全ての求職者を対象としており、「埼玉しごとセンター」での就業支援の対象者と重複し、役割分担を明確にする必要がある。

他県の事例も参考に、シニア支援に注力するための効率的な事業手法についてゼロベースで議論が必要である。

上記指摘を踏まえ、担当課では事業を廃止した上で再構築することを検討しており、その是非及び事業再構築に必要な視点などを助言していただきたい。

<EBPM 上の課題>

アウトカム指標はシニアの就業支援の利用者数・就業確認者数としているが、事業活動においてシニアをはじめとする全ての求職者を支援対象としており、「埼玉しごとセンター」での就業支援の対象者との重複があり、インプットが過大となっている。

担当部局の説明

<事務局の提示する課題についての説明>

「埼玉しごとセンター」は就職相談を県が、職業紹介を国が行っている、就業支援における国と地方の一体的実施施設であるのに対し、「セカンドキャリアセンター」では、相談から職業紹介までを県が一貫して行っており、独自の工夫により実績を上げている。支援の手法も異なり、支援の中心となる地域も異なることから、重複しているとは考えていない。

相談内容にはデリケートな話題も含まれており、面接相談をオンラインのみで行うことは現実的でなく、より多くの方に支援を行うには相談会場は一定数必要である。相談会場は常設ではなく、市町の協力を得て実施していることから、他県と比較して非効率とは言えないと考える。

一方、シニア支援を目的とする事業に全世代を支援する事業費を位置付けているということは事実である。そうしたことから、本事業を廃止した上で再構築することを検討したいと考えている。

議事の概要

< A 委員 >

委員：セカンドキャリアセンターが、シニアを含む全求職者を対象にしてきたのはどのような事情からか。

担当部局：若者と女性向けに出張での就職相談を行っていたところ、平成 25 年に中高年を対象者として追加し全年齢が対象となった。その後セカンドキャリアセンターを設置し、シニアについて注力しつつも、引き続き全年齢を対象とするという状況を保ち続けている。

委員：60 才以上の就業率が平成 30 年度と令和元年度あたりで上昇しているが、これは丁寧なマッチングの成果と解釈しうるのか。

担当部局：詳しく分析していないが、平成 28 年度からセカンドキャリアセンターという形で始めて、だんだんと工夫を重ねて就業率が上昇していると解釈している。

< B 委員 >

委員：雇用に関しては基本的にハローワークが中心という中で、県が関わる場所の意義は。

担当部局：ハローワークが大量の就職情報を持ち、全国各箇所で支援をしている中、何らかの事情を抱えて就業に結びつかない方がいるところを、県が丁寧に支援するという位置づけで就業支援を行っている。

委員：人材の育成や人材不足への対応といった課題に対し、産業振興と一体的にやるのが効果的かと思うが、そういった観点からの取組は行っていないのか。

担当部局：企業の人材確保を主眼に置いた支援は、他の事業において取り組んでいる。

委員：シニアの方だけでなく支援対象を広げることだが、女性や障害のある方といったところまで広げることか。

担当部局：女性や障害のある方に対する支援は、既に他の就業支援の事業の中でそれぞれに合った支援を行っている。

< C 委員 >

委員：「埼玉しごとセンター」の受託事業者と統一することで、セカンドキャリアセンターの特色を維持することは難しいのか。

担当部局：受託事業者が統一されても、その手法について維持することはできる。

委員：なぜシニア支援に特化する方向ではなく、全世代を支援対象とする方向で再構築することを考えているのか。

担当部局：高齢者の就業が一般化してきたことによる。また、丁寧なマッチングという手法はあらゆる世代の就業支援に有効であるため、就業率の向上や企業の人手不足の解消につながると考えている。

委員：国、市町村、或いは民間が行っている支援とメリハリをつける必要性はないのか。

担当部局：支援の質、内容という点で、ハローワーク等では行っていない丁寧なマッチングを前面に打ち出していくことを考えている。

委員の評価及び意見

< A委員 > B（廃止又は再構築すべき）

丁寧なマッチングで成果を上げているという認識が妥当なのか、データで再検証し、今後の方向性を考えるべき。

都道府県レベルでは、幅広い年齢層を対象としつつ、その時々で重点を置く対象を変えるなど柔軟な枠組みにしておくことが重要ではないか。

< B委員 > B（廃止又は再構築すべき）

埼玉しごとセンターとセカンドキャリアセンターで異なる事業者委託することについては、競合による効率化につながっているのか、あるいは情報分散による非効率化につながっているのか、確認が必要である。

国はハローワークによる職業紹介事業の品質向上、市町村は福祉施策と一体的な取組で対応するとの考え方もあり、職業紹介をめぐる国・県・市町村の役割分担に照らした検討が必要である。

県の役割としては、産業振興の取組と一緒に求職者支援を実施することが重要である。

他の就労支援事業（障害者や女性に対する就労支援等）との統合も含めて検討が必要だろう。

委託業者との契約にあたっては、成功報酬型を導入するなどの工夫が考えられる。

< C委員 > B（廃止又は再構築すべき）

担当課の「事業をいったん廃止して全世代を支援する事業として再構築する」という方針は適切である。

セカンドキャリアセンター事業は、埼玉しごとセンターの業務との重複はあるが、雇用の掘り起こしや企業に対する求人要件の緩和交渉などを実施し、一定の独自性を発揮していると考えられる。

事業のノウハウが受託事業者に蓄積されているが、県にノウハウが蓄積されるような手法を検討すべき。

有識者会議を踏まえた評価

【B（廃止又は再構築すべき）】

ハローワークや市町村、民間事業者等での支援を踏まえ、県として行うべき就業支援について検討し、事業の再構築を行うべき。

「セカンドキャリアセンター」と「埼玉しごとセンター」の支援対象者に重複があるため、それぞれの事業効果を比較し、効率化の観点から異なる事業者委託することについて再検証すべき。

有識者の意見から考えられる方向性

ハローワークや市町村等との役割分担を踏まえ、県が実施すべき就業支援を検討する。

幅広い年齢層を対象としつつ、その時々課題に合わせて重点化した就業支援を実施する。

就業支援のノウハウが県に蓄積されるようなスキーム、成功報酬型など委託内容についても検討する。

【令和6年度当初予算】

予算額

【令和6年度】

事業費	119,078千円
うち一財	119,078千円

【令和5年度】

事業費	143,673千円
うち一財	143,673千円

評価・意見を踏まえた対応等

【評価・意見を踏まえた対応】

セカンドキャリアセンターの支援対象者の見直しを行い、埼玉しごとセンターとの一体的な運営手法の検討を行った。

【令和6年度当初予算への反映状況】

「シニアの多様な働き方支援事業」を廃止し、支援対象をシニア中心から全世代の求職者へ拡充するなど、事業を再構築することで、「埼玉しごとセンター推進事業」へ統合した。さらに、同一事業者による一体的運営へ転換し、効率化を図る。